

『(希^{まれ}ならぬ)ありふれた70歳・創造へのレクイエム^歌』

～歌とフルートの極私的コンサート～

12月6日(日) 14:00 開演(13:30 開場)

会場:まつむし音楽堂

出演:久保慶子(Vo, Pf)・和田高幸(Fl, BassFl, Vo)

入場無料 *終了後に懇親会(自由参加。@2000)

曲目:

アメージング・グレース、グリーンズリーヴズ、虹の彼方へ、エーデルワイス



愛国行進曲(英語歌詞付)、海ゆかば、ワルチングマチルダ、神田川



「アルルの女」より「メヌエット」、「歌の翼」変奏曲、ユーモレスク、セレナーデ



千の風になって、上を向いて歩こう、ほか

.....

おなまえ:

懇親会参加: ()名

これんらく先:

お申込み、お問合せ:まつむし音楽堂 Tel/06-6624-0559 Fax/06-6624-5061 email/salon@ladies.jp

1970年に自費出版した「処女航海」(十代の作品集)を、50年後に読み返してみましたが、そこには「海」と「音楽」への憧れが色濃く記されていました。学生時代のアルバイト先(NHK 文研)上司、就職先の産経新聞社編集局長(当時)、定年後は自営業見習い先の社長(当時)がすべて海軍兵学校75期生、就職時に出会った小説「木曜島の夜会」(木曜島は豪州北部の島)の著者司馬遼太郎氏は産経の大先輩だが、後に司馬氏ゆかりの松山市、「坂の上の雲ミュージアム」での講演、大阪湾岸 WTC(現府庁第二庁舎)での UFO 写真展、「大阪市立なにわの海の時空館」(閉館)でのコンサート……など、これまで歩んできた人生もなぜか「海」と切り離すことができません。「水の都」大阪へのこだわりもそのためでしょうか。それはともかく、「処女航海」の序文を書いてくださった故榎田英之介氏は、「吹くだけで笛吹くことにならない。汝は指を動かさねばならない。サブ行ケ、月も出夕。出航用意済ヲアゲ!!」、と。巡りに巡って、やっと辿りついた最後の港がここ大阪、阿倍野でした。時代の転換期を目の当たりにして、天上から冷笑する亡き連れ合いのまなざしをよそに、極私的コンサートをやらかすアホなおトコが一人。おひまなら、ぜひおいでください。(和田高幸)

久保 慶子 Kubo Keiko

ピアニスト、ソプラノ歌手。6歳よりピアノを始める。兵庫県学生ピアノコンクール、来音会ピアノコンクール等入賞。松蔭中学・高等学校コーラス部を経て、大阪音楽大学声楽学科卒業。百合学院小学校に音楽講師として8年間勤務。2006年、イタリアアレツツオ国際ポリフォニーコンクールに推薦され、イタリアへ。アッジジほか各地で演奏を披露。2014年兵庫県立芸術文化センターにてジョイントリサイタル開催。2013、15、16年クレオ大阪主催『ママのためのお気軽クラシックコンサート』に出演、ソロ弾き語り
に定評を得る。声楽を田原祥一郎、三井健嗣、ピアノを故島崎玲、富樫三起子各氏に師事。



和田 高幸 Wada Takayuki

フルート、バスフルート奏者。西オーストラリア工科大在学中はフルートをオーウェン・フィセンデン氏に師事。数々の超常現象体験をへて「音」の有用性を追求。著書に「ニュートラルポイントの秘密」「未知の彼方へ」「直観と環境テクノロジー」「言霊予知術」、論文に「[言霊の解明とセラピーへの応用](#)」「[音楽療法概論](#)」「[Lighting Associated with UFO Phenomena](#)」(SSE)ほか。元産経新聞記者、関西日本サイ科学会会長、インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会会員。

